

特別展

中近東遊牧民の染織

—松島コレクション—



会期

昭和60年 6月11日(火)

)

昭和60年 7月28日(日)

会場

第一会場

(地下1階, 主陳列室)

第二会場

(2階, サロンミュゼ,
特別陳列室)

—綴織敷物—

トルコ, トルクメン族

110×196cm

渋谷区立松濤美術館

解 説



ロバに乗り移動するクアシュカイ族遊牧民、イラン

西はトルコから東は西パキスタンに至る中近東の国々は、シルクロードの要衝として栄え幾多の民族が興亡を繰り返しました。

長い歴史を持つ中近東は、織物の発生においても最も古い歴史を持っています。この地から様々な織物技法が生れ、近隣諸国に伝えられてゆきました。

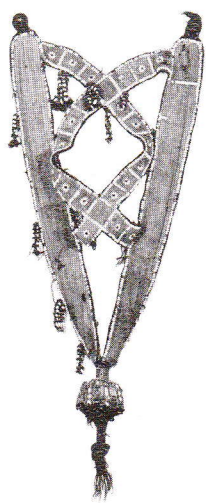
〔遊牧民の生活〕

近代化や定住化政策などにより生活が狭められてきているとはいえ、中近東の草原、砂漠、山岳地帯には、今もなお、羊や山羊、ラクダなどの家畜を飼い移動生活を営む遊牧民が数多く住んでいます。

乾燥した土地柄から水と牧草を求めて夏の間、1500m以上の高地に移り、冬には温暖の低地に帰って過ごす移動の生活を強いられます。

時には数ヶ月を要する長旅の間には、崖や河を渡る際、あるいは旱魃^{かんばつ}などにより、彼らの生活手段である家畜を一挙に失うことも珍らしくなく、厳しい大自然の中で生活を送っています。

彼らは家畜の乳製品や毛や皮を、農耕民の穀物や野菜などと交換して生活しています。日常、男は放牧など家畜の世話をし、近年では時として日雇い仕事に出かけたりもし、女は家事や育児をし、その合間に機織仕事にいらそしました。



ラクダ用首飾
パキスタン ブロイ族



サドルバッグ 綴織
東トルコ クルド族

〔暮しの中の織物〕

遊牧民は自給自足の生活に徹し、日用品の大部分を織物でまかない、暮しのあらゆる細部を織物で飾りました。

逗留地で張られたテントはテント用ベルトや扉飾りで飾られ、内部には家財道具が置かれ、袋類が吊り下げられています。

家畜に乗って移動する際には、鞍と袋を兼用したサドルバッグに跨がり、家畜を飾って旅をします。この為、織物は丈夫で携帯に便利のように工夫されていました。

遊牧民の染織品は女性達の毎日の絶えまない手作業の中から産み出されてきました。母親は娘を一人前に育てる為に機織^{はたおり}仕事で鍛えあげました。



ブロイ族のテント内部風景

バルチスタン
(パキスタンの一部)

〔部族の象徴としての織物〕

遊牧民は自分達の織った織物が他部族の目に何度も晒されるといふ経験の積み重ねを繰り返して、部族独自の織物の色彩とデザインを洗練させていきました。その織物は部族の象徴であり、又、織物によって自らの権威を示しました。それが彼らの織った敷物などに端的に表現されています。

〔織物の技法〕

本展出品の染織品の技法は多岐に渡りますが、その代表作として以下のものがあります。

1 フェルト (毛氈)

フェルトは保温性のある素材である為、寒冷地の遊牧民のテントの材料として使用される他に敷物、衣類、帽子、靴など幅広い用途に使われます。その製法は、羊などの刈り取った原毛を繊維にほぐし、平らな布の上に敷き重ね、水又は湯をかけて、すのこで巻き込み圧縮して仕上げます。染色した毛を並べて文様を描き出すこともできます。

2 フラット・ウィーヴ技法

経糸と緯糸の交錯による純粋に織りの作業のみによって仕上げられる織物で、表面が平らな、丈夫な敷物になります。紋織、綴織、ソウマク織、刺繍、錦などの技法が含まれます。遊牧民の移動用の水平機で、一人ないし二人で織られるものが多く、本展の敷物の大部分はこれらの織り方を基本としています。

3 パイルド・ウィーヴ (パイル織) 技法

上記の表面が平らに仕上がるフラット織に対して、織りの技法に加えて、結びと切りの作業を加えて表面に毛房を立てて毛羽立てた織り方です。

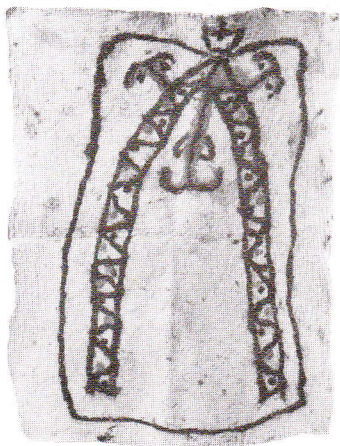


水平織で敷物を織る遊牧民の女 パルチスタン

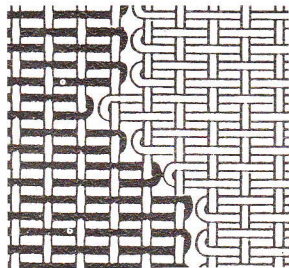
これには、切りの作業によるカット・パイル技法、結び目を輪状にしたループド・パイル (輪糸織) 技法、更に、経糸に別の毛糸を絡ませて短かく切りそろえたノットド・パイル (結び織) 技法があげられます。

中でも、結び織は、カーペット織とも呼ばれ、ペルシャカーペットや、中国の緞通に代表され、専門家の下絵に従い、多人数で堅機を使い多くの工程を経て、緻密に仕上げる商品用カーペットに多く使われ、遊牧民の素朴なフラット織技法に対比されます。

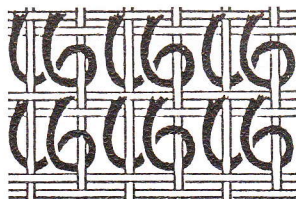
本展出品の染織品は中近東に長年滞在して遊牧民の織物を中心に収集された松島きよえ氏のコレクションから選んだもので、その種類も多く、遊牧民の生活を理解する上で、まことに貴重な品々といえます。



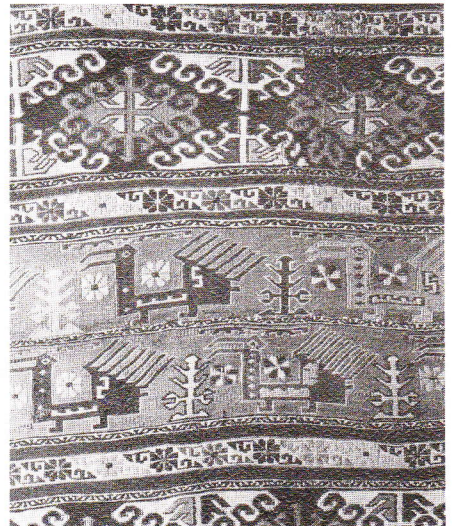
祈禱用敷物 フェルト
東トルコ トルクメン族



綴織基本型組織図



結び織 (ペルシャ結び) 組織図



袋物表布部分 ソウマク織
コーカサス クルド族

講演会

6月29日(土) 午後2:00~

「アジアの敷物について」

(遠山記念館館長) 山辺 知行氏

7月13日(土) 午後2:00~

「遊牧民の女と織物」

(創作舞踊家) 松島きよえ氏

美術相談

美術作家を招き、皆さんの作品を見ながら、技術指導や相談を行います。美術史・美術図書の相談にも応じます。

6月16日(日) 午後1:00~4:00

洋画家 宮田翁輔氏 版画家 畑農照雄氏

7月7日(日) 午後1:00~4:00

洋画家 西嶋俊親氏 日本画家 滝沢具幸氏

★申込方法 事前に電話で相談内容をお知らせください。

★料 金 入館料のみ(相談・映画会とも)

美術映画会

6月16日(日) 午後2:00~

「遊牧民の染織のみどころについて」

(松島きよえ氏によるスライド映写会)

6月23日(日) 午後2:00~

「真珠の都・イスファハン」

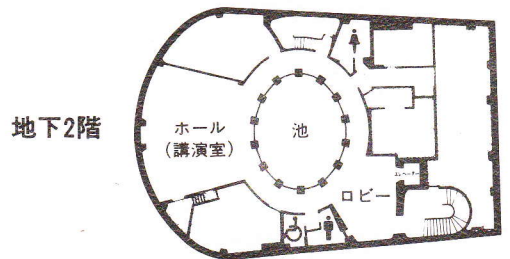
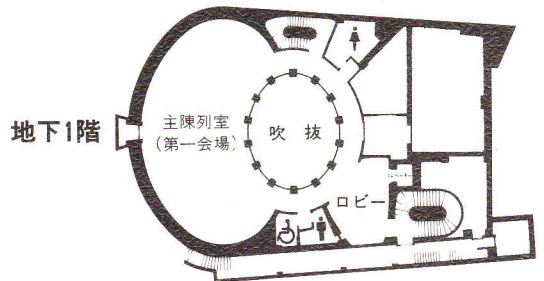
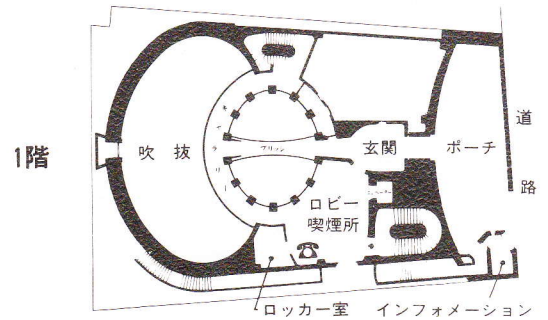
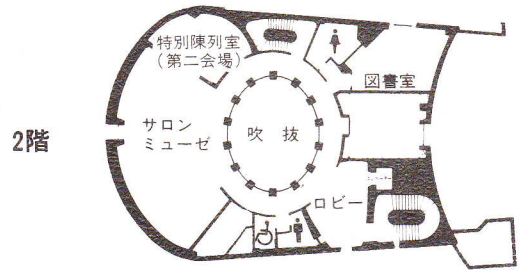
「興亡の都サマルカンド」他

7月21日(日) 午後2:00~

「速水御舟 —その壮烈果敢な芸術生涯—」

「唐招提寺への道(東山魁夷)」

松濤美術館・平面図



会 期 昭和60年6月11日(火)~7月28日(日)

休館日 6月17日(月) 6月24日(月)

7月1日(月) 7月8日(月) 7月14日(日) 7月22日(月)

開館時間 午前9時~午後5時(ただし、入館は4時30分)

入館料

	個人	団体(20人以上)
一般	200円	160円
小・中学生	100円	80円

